

2015. October



鳴門教育大学の教育・研究活動紹介(機構設立)

**BPプロジェクト**  
(いじめ防止支援プロジェクト)について

国際交流  
姫路への学外研修  
日本の伝統料理体験

今号の内容

新任教職員11名  
カシコ挨拶

こんにちは附属です!! 相談室カウンセラーから『話すこと』は『放すこと』

★ 第32回 鳴潮祭 実行委員長からのメッセージ ★  
**むちやいきやったれ!!**  
み(3)んなでつ(2)くる渦渦大笑!! ほか

学生会/院生会だより  
みなさんのより良い学生生活をめざして  
受け継がれていく院生会

学園だより

G A K U E N D A Y O R I

老師と私の研究.....	学長 田中 雄三	1
ようこそ鳴門へ ～新任教職員の横顔～.....		2
石濱 博之, 藤井伊佐子, 内田香奈子, 大平 和哉, 森 康彦, 吉川 エリザベス, 丹羽 敦子, 竹口 佳昭, 黒川 丈朗, 川野 茂, 水間 貫了		
教育・研究活動紹介.....		6
B Pプロジェクト (いじめ防止支援プロジェクト) について	理事・副学長 いじめ防止支援機構長 山下 一夫	
「遊びの中で学ぶ！」授業を実現する - 予防教育科学センターの夢キラリ☆ -	予防教育科学センター所長 山崎 勝之	
生徒指導支援センターが新設されました	生徒指導支援センター所長 阿形 恒秀	
熱戦！！ 第66回四国地区大学総合体育大会.....		9
競技日程・成績, 壮行会・各競技の様様		
もうすぐ鳴潮祭.....		12
- おちゃいきやったれ！！ み (3) んなでつ (2) くる渦渦大笑！！ -		
第32回鳴潮祭(大学祭)実行委員会委員長	田崎 裕太	
課外活動News ～3団体あたらしく設立しました！～.....		14
ハンドメイドサークル	部長 原田 弥和	
I T C井戸端会議	代表 長谷川 静	
子ども☆アトリエヌ	代表 本田 愛, 志摩 遥	
男子バスケットボール部	主将 町田 哲郎	
こんにちは附属です.....		16
主免教育実習	附属小学校 教諭 大西 愛子	
吹いて奏でて楽しい部をめざして	附属中学校 教諭 上原 祥子	
こんにちは附属です	附属特別支援学校 教諭 岩寄 伸浩	
夕べのつどい・宿泊保育を経験して	附属幼稚園 教諭 藤川佳余子	
国際交流.....		18
日本の伝統料理体験	マルフィ ハニ	
姫路への学外研修	ティアンウォン ティチャー	
留学体験記 -アメリカウェスタンカロライナ大学留学報告-	河村 優	
韓国の光州教育大学との交流について	阿形 恒秀	
一日警察署長を体験してみて.....		22
	竹下早慧子	
学生会・院生会だより.....		23
みなさんのより良い学生生活をめざして	学生会長 知花 泰斗	
受け継がれていく院生会	院生会長 阪下 健太	
健康手帳 「原爆被害と白血病」.....		24
	心身健康センター所長 廣瀬 政雄	
学生相談室だより.....		25
	カウンセラー 三輪 幸子	
なるきょう通信 -大学からのおしらせ-.....		26
平成27年度学生生活実態調査 / 道路交通法 (自転車ルール) の改正について		
行事予定 / 編集後記.....		27

# 老師と私の研究

◆ 学長 田中雄三



私の教育研究の指導教授であった老師が、今年、米寿を迎えられ、10月にお祝いをする事になった。私は神経精神医学教室で20年ほどお世話になっている。思いついて

当時発表した論文一覧を眺めてみると、特に思い出深い論文が何点かあった。以下に紹介する。(註1)

○「精神疾患患者同士の結婚について」(共著)：精神医学20巻10号；1069-1077,1978.

初期の論文である。精神科の患者さんは若い人が多い。病気もさることながら、結婚できるかどうか大きな悩みの種である。なかなか相手が見つからず、患者さん同士で結婚する事例がある。彼らの事例を集め、結婚生活が精神疾患に及ぼす影響について調べてみた。

査読者のコメントは、このような調査研究は、我が国では初めてであるとのこと。受理が決まった。投稿した論文が受理された時の喜びは格別である。

○「病的嫉妬における強迫的傾向」(単著)：臨床精神病理1巻2号；181-194,1980.

従来の病的嫉妬の分類の中に、強迫的色彩を強く帯びた「強迫的病的嫉妬」を位置づけることが、臨床上有益であることを事例を通して考察した論文。当時、精神病理学・精神療法研究グループに所属していた私の専門分野における労作の一編。編集委員にも好意的に迎えられ、この論文を契機に多くの著名な精神病理学者と知り合うことが出来た。承認欲求が賦活されるとともに、研究の喜びを感じるようになった次第である。

○「Computerized tomography of the brain in schizophrenic patients. A controlled study」(共著)：Acta psychiat. scand.Vol.63；191-197,1981。(註2)

私は生物学的研究グループにも出入りしていたので、そこのメンバーと一緒に統合失調症の患者さんの頭部CT所見を探索し、脳の形態学的変化について研究することになった。米国のワインバーガー一派の研究を追認すると同時に、新たな知見を発表した。すなわち、schizophrenic patientsの第3脳室の拡大と罹病期間の間に相関があることをデータで示した。ノイエス(新知見)である。

この論文が発表されると、一年以上にわたって、200人近い海外研究者から論文別刷りの依頼があった。何故か、日本ではほとんど引用されなかったが、海外の専門誌にはよく引用され、自尊心が満たされた。

さて、恩師の米寿の会で、昔の研究に話が弾むだろうか。研究のフィールドから離れて久しいが、論文の採否に一喜一憂していた頃が何故か懐かしい。精神科に入局した当時、先輩がよく言っていた言葉を思い出す。「君たち、1貫目いくらの論文を量産しても意味がないよ。」そしてこう付け加えた。「論文にはノイエスが必要だよ。ノイエス、ノイエスだよ。」(註3)

当時、研究の多様性を認めて頂いた老師に改めて感謝する。老師は、まだ現役の精神科医であり、私の心の中に老賢者として取り入れられている。

(註1) 学位論文(「鳥取大学式性格検査質問紙の作成とその使用成績について」：米子医誌25巻4号；335-348,1974)は、苦勞した論文だが、以前の学園便りで一部触れているので、今回は略。

(註2) この論文により、Who's Who in the World 7th ed.(1984-1985)に名前が掲載されたものと思われる。この年、安部公房の名前も見られる。

(註3) 先輩の研究はネコ100匹を実験材料にした基礎実験であり、第一回下田光造賞を受賞。



## ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～

### ◆ 言語系コース（英語）教授 <sup>いし</sup>石 <sup>はま</sup>濱 <sup>ひろ</sup>博 <sup>ゆき</sup>之

上越教育大学から本学に異動のお話をいただいた時、“Let Me Try Again”（ポップ・シンガーフランク・シナトラのカムバック曲・カラベリ作曲）を思い出し、鳴門教育大学をご奉公場所と決意しました。

私の研究領域は英語教育学です。大学院修了後、再び中学校教員になりましたが、早期英語教育に関心がありました。現在は主に小学校英語教育を

研究対象としており、実践的研究を得意としています。また、過去から児童を英語指導した回数は、1900回以上になっております。鳴門教育大学在職中に2000回を超えたいです。小学校英語教育の「職人」をめざしています。

「気候も暖かい、人間も温かい（そう願いたい）」鳴門教育大学で、四年間、自分の研究をまとめ、本学に貢献できたらと願っております。

### ◆ 教職実践力高度化コース 教授 <sup>ふじ</sup>藤 <sup>い</sup>井 <sup>いさこ</sup>伊佐子

「置かれたところで咲きなさい」・・・この言葉に出会って25年。学級開き、卒業時等、あらゆる機会に自分の想いをこの言葉に込めて伝えてきた中で数々のドラマが生まれました。先天的な視力障害のA君が捻挫した時、高校生になってラグビーをするための訓練の一環だからと、自分より背丈の高いA君を背負って4階の教室まで階段を上って

いたB君。そして、誰かが彼らにぶつからないようにと二人の周りを取り囲み歩み続けた仲間たち。今もその情景が目には浮かび、胸が熱くなります。

4月から本大学の一員となり、教職の魅力や意義を伝えたり再確認したりする喜びを感じながら、「置かれたところで咲きなさい」と自分自身につぶやいている私です。

### ◆ 人間形成コース 准教授 <sup>うち</sup>内 <sup>だ</sup>田 <sup>かなこ</sup>香奈子

4月より人間形成コースに着任いたしました、内田香奈子と申します。昨年度まで予防教育科学センターの専任教員として勤務しておりましたが、今年度より大学院での修士論文指導も担当することになりました。専門は心理学で、特にストレスへの対処方法やきもち（感情）の役割について基礎的な研究をしています。応用研究は、児童生徒の不適

応行動等の予防を目的とした教育内容の開発です。

島根生まれの広島育ちです。大学院より徳島に居を移し、かれこれ10年以上がたちます。それでも未だに知らないことが多くあり、みなさまに色々教えていただく日々です。これからも精進したいと存じます。どうぞよろしく願い申し上げます。

# ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～

## ◆ 現代教育課題総合コース 准教授 <sup>おお</sup>大 <sup>ひら</sup>平 <sup>かず</sup>和 <sup>や</sup>哉

このたび、ご縁があり本学に赴任して参りました大平和哉と申します。昨年度までは、徳島市の新町小学校で教頭をしておりました。それ以外にも、鳴門教育大学附属小学校教諭や徳島県立総合教育センター指導主事の勤務経験があります。本学では、

遠隔教育プログラム推進室に所属し、現職教員や教育関係者の方が、働きながら大学院で学べるようにインターネットを利用して授業やゼミを行っています。大学での勤務は初めてですが、これまでの経験を生かし、遠隔で学ぶ大学院生のニーズに応えられるように力を尽くして参りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## ◆ 教員養成特別コース 准教授 <sup>もり</sup>森 <sup>やす</sup>康 <sup>ひこ</sup>彦

平成27年4月より教職大学院教員養成特別コースに参りました森康彦と申します。大阪の堺市で33年間小学校の教員生活をしていました。20年前、現職教員として本学大学院に2年間内地留学し、その懐かしい大学に教員として戻ることになりま

した。重責を感じていますが、その当時お世話になった先生方もおられ、また、2年間過ごした学生宿舎や鳴門の風景を間近に見るにつけ、何かしら若返ったような気分になっています。学生さんたちが「鳴門で学んでよかった」と思えるように精一杯支援し、共に学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## ◆ 言語系コース（英語） 准教授 <sup>よし</sup>吉 <sup>かわ</sup>川 エリザベス

I completed my master's degree in Linguistics with a focus on teaching English as a foreign language at the university of Surrey in the UK. At that time my research interests were on student motivation and task-based teaching. For me understanding different types of student motivation is important so that as instructors we can understand how we may influence students' interest in learning and use this to improve how we teach in class. Through raising students' intrinsic motivation, and therefore their own enjoyment in the learning of English, as instructors we can also better prepare our students for their future livelihoods.

Currently I am interested in a sociological perspective in the perception of the power of language in education, how that power is implemented through foreign language policies, and the disjunction between presumed and received messages regarding foreign language learning and programs. This has evolved out of the current focus on the teaching of English

Communication skills at grade school to develop 'Japanese with English Abilities' as espoused by the Education Ministry.

One of the current universal themes of higher education is the ideal of internationalization within a global context. The internationalization of higher education institutions, especially universities is typically a response to pressures from both the market sector and governmental policies on education. While this is wrought with cautions it does warrant research in how individual higher education institutions are able to internationalize themselves within their continual development. Not only in their programs, but more specifically in how they market themselves to the international market is defined in part by their ability to do so. While it might seem like my research interests are drastically changing, it should be remembered that how the ideals of internationalization are contributing factors within higher education, depends on how they evolve within the ideologies of the locale. To understand this, my research is evolving to include a greater sociolinguist and socio-cultural perspective to language learning.

# ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～

私は、外国語としての英語教授法（ESL）における言語学修士号をイギリスのサリー大学で取得しました。当時、私の研究的興味は学習者の動機及びタスクを中心とした教授法でした。学習者それぞれの動機を理解することは非常に重要であり、それによって我々指導者の指導がどのような影響力を持つのかを把握でき、更には指導法の改善にも繋げることができます。学習者の本質的な動機の向上と、それにより得られる英語を学ぶ喜びを通じて、指導者も学習者を彼らの将来に向けて準備させていくことが可能となるでしょう。

現在の私の研究的興味は、社会学的な観点で捉えた教育における言語が持つ可能性の捉え方です。外国語教育政策を通して、可能性はどのように生まれるのか、また指導者が考える言語の力と、学習者が考える言語の力の差についてです。これは文科省が推奨する昨今の小学校外国語活動における「英語スキルを持った日本人の育成」の政策観点から生まれた研究的興味です。

現在の高等教育における主な課題の一つは、世界規模の国際化をどういうふう to 実現するかということでしょう。大学をはじめ、高等教育機関の国際化という目標は、基本的に経済市場と政権の教育政策という主に2つの外圧によるものです。圧力といえれば問題視されるべきことではありますが、その一方で、高等教育機関の対応を研究することには価値があります。具体的に言えば、高等教育機関は「国際化」という圧力に対して、将来的な成長のために、機関としてどのように対応するか、更に国際的にどのようにアピールするかも研究する価値があります。

そう聞くと、最初に述べた研究的興味とは違っているように思われるかもしれませんが、国際化を重要視することは、大学の政策に大きな影響を与え、また地域によってもその影響は異なります。したがって私の研究は、より広い意味での社会言語的かつ社会文化的な観点を含んだ言語学習に焦点を当てているのです。

## ◆ 教員養成特別コース 特任講師 <sup>に</sup>丹 <sup>わ</sup>羽 <sup>あつ</sup>敦 <sup>こ</sup>子

小学校時代の教師との出会いで保健体育教師をめざしました。小中は、器械体操と陸上、高校からはバスケットボール部に所属し、スポーツを通して楽しさ、厳しさ、喜びを経験しました。

教師になってからは、バスケットボール部の顧問として、子どもたちと負けて泣き、勝って泣い

たものでしたが、「勝ち負けではない、負けは負けではない」ということを共に学んだ教師人生でありました。

出会った子どもたちには、「人間っていいな」というつぶやきがでる人生を歩んでほしいと願っています。私自身は、これからも「心と体にいいこと探し」を続けていこうと思っています。

## ◆ 生徒指導支援センター 研究員 <sup>たけ</sup>竹 <sup>ぐち</sup>口 <sup>よし</sup>佳 <sup>あき</sup>昭

今年4月に開設された生徒指導支援センターに着任いたしました。竹口佳昭と申します。

これまで、公立小学校・中学校の教員、小学校・中学校・高等学校・短期大学・特別支援学校等でスクールカウンセラーとして、児童・生徒・学生・保護者・教員など関わってきました。

今、学校現場の先生方は、多種多様な仕事を抱え、多忙な日々を過ごしています。そのため、子ども

たちと十分に関わる時間を見いだせなくて悩んでいる先生方がたくさんいます。また、いじめ・不登校・非行・学級崩壊など生徒指導上の問題や、児童生徒や保護者との関係作りの難しさに直面して悩んでいる先生方もたくさんいます。

これまでの経験を生かし、現場の先生方とともに課題解決の方策を考えていきたいと思っています。

どうぞ宜しくお願いいたします。

# ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～

## ◆ 理事(総務・財務担当) 兼・副学長(予算・施設担当) <sup>くろ</sup>黒 <sup>かわ</sup>川 <sup>たけ</sup>丈 <sup>お</sup>朗

4月に理事・副学長として着任しました黒川です。これまで文部科学本省で高等教育関係、文化財保護行政や内閣府情報公開審査会勤務を経て京都大学企画部長、鹿屋体育大学理事などの仕事を経験してきました。

鳴門教育大学は、高度な教職の専門性と教育実践力かつ豊かな人間愛を備えた優秀な教員を世に送り出すことを掲げ、教員就職率全国1位を5年連続で達成しています。本学の丁寧な教育体制による教育成果が社会に認められていることの証です。

学生さん達を目線で考えると日本の未来を支える子ども達のために教員になりたいという夢を叶えることが、大学としての役割を果たすことだと思います。夢を叶えるために過ごすキャンパスライフにおいて、快適な修学環境は大学の魅力の大きな要素であると思います。

予算や施設を担当する副学長として、丁寧な教育とともにキャンパス・アメニティを充実させることにより、入学満足度、在学満足度、卒業満足度を高めることができるよう全力を尽くしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

## ◆ 監査室長(兼) 経営企画本部主幹 <sup>かわ</sup>川 <sup>の</sup>野 <sup>しげる</sup>茂

4月から監査室長に着任しました川野です。鳴門教育大学に来るのは、3度目となりますが、キャンパスの木々が大きくなっていることに、時の経過を感じています。前任は徳島大学病院経理課課長補佐を2年間務め、これまでに、香川医科大学(現香川大学)、阿南工業高等専門学校に勤めたことがあり、

主として会計業務に携わってきました。

私がいた頃の鳴門教育大学は、教員就職率が悪くて、ひとつの課題となっていました。それが、5年連続全国第1位となっていることに驚いています。ひとえに、皆様方のこれまでの努力の結果だと思います。このままトップを走れるよう少しでもサポートできればと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

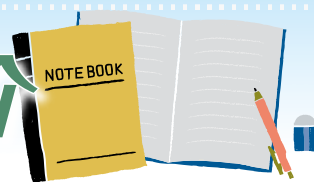
## ◆ 入試課長 <sup>みず</sup>水 <sup>ま</sup>間 <sup>かん</sup>貫 <sup>りょう</sup>了

4月に着任しました入試課長の水間です。中四国地区でいくつかの勤務を経て三十数年ぶりに徳島県に戻った阿波弁ネイティブ?です。四国や瀬戸内近県ではそれほど印象の差がないかというと、気候風土や県民性はけっこうな違いで(主観です)、戸惑ったり過敏に反応したこともありました。最近そこが面白いと思えるのはほどよく鈍感になった

せいでしょうか。

さて、「厳正な入学者選抜」と「優秀な志願者確保」は、一連でありながら視点の異なる業務でもあり、社会影響の大きさから責任の自覚は無論ですが、皆様のご協力のもとに私の経験も生かせるものと楽しみに考えております。

で、これまでの職場でどこが一番いいかって? もちろん鳴教です! どうぞよろしくお願いします。



## BPプロジェクト(いじめ防止支援プロジェクト)について

◆ 理事・副学長 いじめ防止支援機構長 やま した かず お  
山 下 一 夫

本学では本年（平成27年）4月に、重大な教育課題となっているいじめ問題の改善に寄与する事業の実施を目的として、「いじめ防止支援機構（BP-CORE）」を新設しました。BP-COREとは、Center of Organization for Research and Education（about Bullying Prevention）の頭文字をとったものです。

そして、本学が取りまとめ役となり、宮城教育大学・上越教育大学・福岡教育大学との協働参加型連携事業として「BPプロジェクト（いじめ防止支援プロジェクト）」を展開することになりました。このプロジェクトは、国立教育政策研究所、日本生徒指導学会など関係機関・組織等と協力し、全国的な規模でネットワークを築き、4大学それぞれの専門的知見を活かしていじめ問題に取り組むことを目指しています。

4月20日には、東京霞が関の霞山会館において、BPプロジェクトの発足式を開催しました。発足式では、4大学学長（宮城教育大学見上一幸学長・上越教育大学佐藤芳徳学長・鳴門教育大学田中雄三学長・福岡教育大学寺尾愼一学長〔代理：檜崎洋二郎理事・副学長〕）、国立教育政策研究所大槻達也所長、日本生徒指導学会森田洋司会長の挨拶の後、文部科学省御来賓（初等中等教育局児童生徒課長坪田知広氏）の御挨拶をいただき、覚書の署名を行いました。

BPプロジェクトでは、今年度、宮城・新潟・福岡・徳島の各地で、いじめ問題に関する研修会を開催し、来年2月には東京で4大学によるシン

ポジウムを行う予定です。

本学は、8月7日に徳島市のあわぎんホールにおいて、BPプロジェクト徳島大会を開催しました。大会ではまず、文部科学省の坪田知広氏から「いじめの問題に関する現状と取組」の演題で御講演いただき、続いて、本学の森田洋司特任教授から「いじめ防止対策推進法制定3年目を迎えて、今、改めて問い直すべきこと」の演題で御講演いただきました。そして最後に、本学教職大学院の阪根健二教授が、「ネットいじめや『ケータイ（スマホ）問題』に関する教師の知識の現状把握と指導の改善について」の演題で講義を行いました。当日は、教員、教育委員会の関係者等377名の参加があり、いじめ問題に関する関心の高さが伺えました。

今後のBPプロジェクトの展開に、是非、御注目ください。

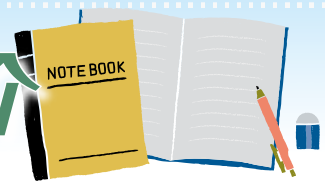


平成27年4月20日BPプロジェクト発足式【左から】日本生徒指導学会森田洋司会長、福岡教育大学檜崎洋二郎理事・副学長、鳴門教育大学田中雄三学長、上越教育大学佐藤芳徳学長、宮城教育大学見上一幸学長、国立教育政策研究所大槻達也所長





# 教育・研究活動紹介



## 「遊びの中で学ぶ！」授業を実現する — 予防教育科学センターの夢キラリ☆ —

◆ 予防教育科学センター 所長 **やま さき かつ ゆき**  
**山 崎 勝 之**

子どもたちにとって、教師にとって、学校は楽しい居場所になっているだろうか。今の学校を見ていると、残念ながらそうではない。

子どもたちが授業に没頭する姿や、はちきれんばかりの笑顔が少なすぎる。教師も、授業にやりがいがあり、子どもたちが楽しみにしてくれたら、どんなに癒やされることだろう。

ご存じだろうか？ 無意識中の情動、それが意識に上った感情がたつぷりと喚起され、その瞬間に本当の学びが起こることを。小難しい理論を抜きにすれば、「子どもは遊びの中で学ぶ」と言える。子どもが遊び、とくに集団遊びをしているときは、このことが自然と実現される。教室での授業という時空間を遊びで染め、学力から健康・適応まで守り育てようという教育の実現。それが、予防教育科学センターが進めるトップ・セルフと呼ばれる学校予防教育だ。

この教育はほぼ完成した。完成したからには、全国津々浦々まで学校で実施してもらいたい。目下8府県に広がっているから、全国普及も夢ではない。そのため、センターのスタッフは獅子奮迅の活動をしている。役立たずで見ているだけなのは、センター所長だ、という噂もある。

学校への導入は、ご安心めされ。その手順は完璧だ。センターからのサポートも万全である。草の根の広がりを目指して進めてきたこの教育は、立ち枯れることもなく広がってくれている。これま

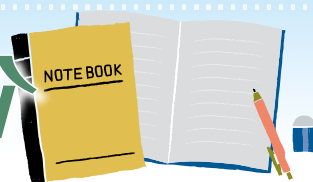


での障壁の高さからすれば、奇跡の進撃と言ってもよいだろう。

「千年の時を越え、なお真実となる教育へ！」  
センターの挑戦は続く・・・。



子どもたちが喜々として参加する「予防教育授業」での集団遊び



## 生徒指導支援センターが新設されました

◆ 生徒指導支援センター 所長 **阿形恒秀**

「生徒指導」は「学習指導」とともに学校教育における要となる指導です。しかしながら、いじめ・不登校・暴力行為などの生徒指導上の諸問題は現在も解消されず、また保護者対応の難しさなどの新たな問題も生じています。このような状況の中で、「生徒指導のできる先生」を求める学校現場や教育委員会の方々の要望に応えるべく、本学は、平成27（2015）年4月に生徒指導支援センターを開設しました。

センターが取り組む具体的な事業は、主に、生徒指導に関する「人材養成」と「相談への対応」を中心とした学校支援です。

「人材養成」については、職員研修への講師派遣、問題事象に関する検討会議への助言者派遣、関係資料の提供などを通じて、教員・学校の生徒指導力向上をサポートします。すでに、4月以降、センターのスタッフは、各地の研修会等で講演・助言を行っています。また、学校現場における生徒指導リーダーやいじめ防止スタッフの養成の支援、スクールカウンセラー等の活用モデルの構築にも取り組んでいます。

「相談への対応」については、いじめ・不登校・

非行・学級崩壊などの生徒指導上の問題や、児童生徒との関係づくりの難しさに直面して困っておられる先生方のご相談に、センターに設置される「生徒指導相談室」が対応しています。

これらの学校支援に係る事業と並行して、生徒指導支援センターでは、学校現場のリアリティを踏まえた生徒指導の研究を進め、児童生徒理解や生徒指導上の諸問題に先生方が対応される際のヒントにさせていただくために、学校現場で活用いただける実践的な資料の開発に取り組んでいます。たとえば五十嵐かおるさんの漫画「いじめ」を活用した教材「いじめの解決方法を見つけ出すワーク」を作成し、ウェブページで公開・提供していますので、是非一度ご覧ください。

生徒指導支援センターのオフィスは、本学の地域連携センターの3階にあります。オフィスには、研究員の竹口佳昭先生が週3日常駐しているほか、所長等が随時、部屋を活用しています。また、いじめ・不登校等に関する文献や、研究所・教育委員会等が発行している諸資料を集めて、多くの方に利用いただけるようにしていますので、お気軽にご活用ください。



センターウェブページ（トップページ）



センターオフィス（ミーティングルーム）

# 熱戦!! 第66回四国地区大学総合体育大会

第66回四国インカレが、愛媛大学を主管大学として 愛媛県内各会場で開催されました。

本学からは、12競技に16団体・総勢211名（男子154名・女子57名）の選手が参加し、熱い戦いを繰り広げました。

参加競技種目	参加団体名	競技会場	開催日程
1 陸上競技	陸上競技部	愛媛県総合運動公園 陸上競技場	6 / 27 ~ 6 / 28
2 水泳競技	水泳部	松山大学御幸キャンパス プール	6 / 20 ~ 6 / 21
3 硬式野球	野球部	松山中央公園坊っちゃんスタジアム	7 / 3 ~ 7 / 5
4 硬式庭球	男子硬式テニス部 女子硬式テニス部	松山中央公園 テニスコート 愛媛県総合運動公園 テニスコート	7 / 3 ~ 7 / 5
5 バスケットボール	男子バスケットボール部 女子バスケットボール部	愛媛大学 第一体育館, 松山大学御幸キャンパス メインアリーナ	6 / 27 ~ 6 / 28
6 バレーボール	男子バレーボール部 女子バレーボール部	松山大学御幸キャンパス メインアリーナ	7 / 4 ~ 7 / 5
7 サッカー	サッカー部	北条スポーツセンター 球技場	7 / 4 ~ 7 / 5
8 ラグビー	ラグビーフットボール部	北条スポーツセンター 球技場	5 / 17, 24, 31
9 バドミントン	バドミントン部	砥部町陶街道ゆとり公園体育館	7 / 3 ~ 7 / 5
10 剣道	剣道部	松山大学御幸キャンパス メインアリーナ	6 / 21
11 ハンドボール	男子ハンドボール部 女子ハンドボール部	愛媛県総合運動公園主体育館	7 / 4 ~ 7 / 5
12 弓道	弓道部	松山大学御幸キャンパス 弓道場	7 / 4 ~ 7 / 5
12競技 / 16団体		開会式 : 7 / 3 閉会式 : 7 / 4	愛媛大学

## 大会成績

総合 男子9位（前回9位） 女子12位（前回10位）

競技別（3位以上） ラグビーフットボール 第3位

個人【種目別】（3位以上）

陸上競技

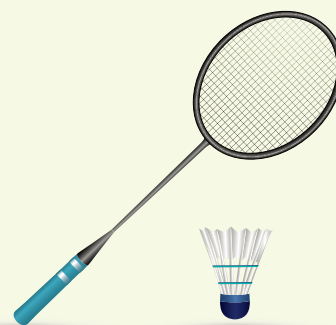
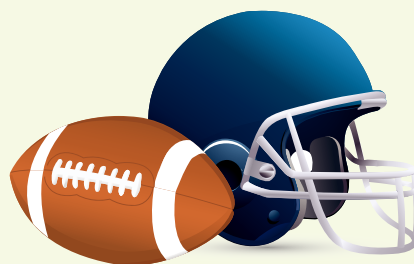
原田 佳奈	女子円盤投げ	第2位
山田 裕起	男子 800m走	第3位
牛尾 太郎	男子 1500m走	第3位
浦山満里奈	女子走幅跳	第3位

水泳競技

高山あかね	女子 200m個人メドレー	第2位
-------	---------------	-----

バドミントン

金森 優太	男子シングルス	第3位
-------	---------	-----



# 熱戦!! 第66回四国地区大学総合体育大会



# 熱戦!! 第66回四国地区大学総合体育大会



# もうすぐ 鳴潮祭

## むちゃいきやったれ！！み(3)んなでつ(2)くる渦渦大笑！！

◆ 大学祭実行委員長 田崎裕太

みなさんこんにちは！！このたび、第32回鳴潮祭の実行委員長を務めさせていただくことになりました。田崎裕太です。今年の鳴潮祭は11月13日（金）～15日（日）に行われる予定です。さて、今年のメインテーマは・・・



に決定しました。

このテーマは「むちゃいき」とむちゃくちゃという意味の阿波弁を使用しました。昨年に引き続き阿波弁を使うことで、徳島県民の方々に親しみを持っていただくことを願って考案しました。また、四字熟語の「呵呵大笑」を鳴門の渦潮にかけて「渦渦大笑」として、鳴潮祭を笑いのあふれるようなものにしたいという願いも込めています。来場していただいた方々が、たくさん笑えるような企画を考えていますので楽しみにしてください。

さて、今年の鳴潮祭に対して皆さんはどのような事を期待し、何を思っているのでしょうか？1年生は初めての鳴潮祭であり、期待と不安の両方の思いを持っていることでしょう。しかし、鳴潮祭の特徴の一つで「主役は1年生」という風潮があります。1年生には、ステージや模擬店などで今年の鳴潮祭のテーマの笑いをたくさん作ってほしいと思います。3・4年生は実習期間と被り、なかなか参加できないかもしれませんが、鳴潮祭

を2・3回も経験した知識を少しでも発揮していただけたら幸いです。2年生は昨年、鳴潮祭を経験していることから、昨年以上の鳴潮祭にしたいという思いがあると思います。よりよい鳴潮祭にするために、1年生をしっかりと指揮してほしいと思います。また、大学院生の方々、大学職員の方々、地域の方々が参加していただけるような鳴潮祭にしましょう。

では、ここで今年度の鳴潮祭実行委員会委員を紹介したいと思います。



# もうすぐ 鳴潮祭

## 第32回鳴潮祭実行委員会委員



三役として全体をまとめる上段左より，ザッキー，とし，むっちゃん

模擬店として衛生面の管理などをする上段右より，くっすん，じっこう，栄ちゃん

広報としてスポンサー集めやパンフレット作成に励んでいる下段左より，みちゃこ，くすみ，みのぼん，きょんきょん

企画として企画作成やライブの運営を手掛ける下段右より，こーの，はんまさ，さいじょー

この13人で最高の学祭をすることを目指しています。これからいろんな困難があると思いますがこの13人なら乗り切れると思います。皆さまのご協力とご理解をお願いします。

最後となりましたが，鳴門教育大学同窓会，後援会の皆様，スポンサーを引き受けてくださった企業の皆様，学生課の方々など多くの支援により私たちは活動でき，鳴潮祭を行うことができます。本当にありがとうございます。

# 課外活動 サークル紹介

## ハンドメイドサークル

◆ 部長 <sup>はら</sup>原 <sup>だ</sup>田 <sup>み</sup>弥 <sup>わ</sup>和

鳴門教育大学ハンドメイドサークルは、ものづくりを通じて相互の親睦を深めるとともにものづくりの技術向上を目的としています。会員数は現在13人で、学部1年生が大半を占めています。自分の手で何かを作り出すことが好きな人たちが集まっており、アイデアを出し合いながらより良い作品を目指し作品作りに取り組んでいます。毎週月曜日の15時～18時30分に大学会館3階第3集会室で楽しく活動しています。サークル費は毎月500円を集金しており、そこから作るのに必要な材料を購入しています。今年度に新しくできたサークルなので、今年は作品をどこかに出品する予定はありません。しかし、自分の作る作品が決まってきた、作業に慣れて作品の品質が上がって

きたという人が増えてきたら文化祭等への出店も考えています。皆さんに素敵なハンドメイド作品を迎えていただける日が来るよう、頑張っていきます。また、会員も随時募集中です。少しでもものづくりに興味がある方、ものづくりが好きな方、楽しく活動したい方などなど時間が合えば遊びに来てください。会員一同お待ちしております。

〈学校教育学部 幼児教育専修 1年〉



【平成27年6月1日設立】

## ICT井戸端会議活動報告

◆ 代表 <sup>は</sup>せ <sup>かわ</sup>長 <sup>し</sup>谷 <sup>ず</sup>川 <sup>じ</sup>静

私たち「ICT井戸端会議」は今年度6月から承認していただき、毎月1回サークル活動を行っております。14名の部員と顧問の泰山先生とともに学校教育におけるICT教育のあり方を考える会となっています。また、外部講師として、NPO法人「学校ICTサポーターズ」の重金さんや「Itコンサルティング・業務システム開発のシャハル」の吉村さんを迎え、色々とアドバイスを頂いています。

今はまだ基本的なところを話し合うことが多いのですが、サークルメンバーが講師になりExcelでマクロを組む方法について学習したり、「こんなアプリがあったら便利だね」とアイデアを出し合ったり、著作権や肖像権の問題についてま

に井戸端会議のように思いつくままに話をしたりしています。これからは、電子黒板や電子機器の利用と授業展開についても互いに学習していきたいと思っています。

〈学校教育研究科 教職実践力高度化コース 1年〉



【平成27年6月1日設立】



# 課外活動 サークル紹介

## 子ども★アトリエヌ

私たち「子ども★アトリエヌ」は、子どもたちが美術的活動を通して主体的に学ぶ活動を企画、推進、支援することを目的として活動しています。具体的には、社会連携課地域連携係と鳴門市が運営しているワークショップN\*CAPに学生として参画したり、鳴門市と鳴門市子どものまちづくり推進協議会主催の子どものまちフェスティバルにブースを出して子どもと一緒に工作をしたりするなど、子どもたちに美術の楽しさを伝える活動を行っています。

今年の6月「第1回ハッピー！N\*CAP」の活動では、大学の地域連携センターで、小学生の子どもたちと保護者の方と一緒に楽器づくりをしました。子どもたちは、保護者の方や学生スタッフ、市のボランティアと協力しながら、思い思いの楽器をつくり上げました。そして、完成したオリジナルの楽器を使ってみんなで楽しく演奏し、たくさんの笑顔で活動を締めくくることができました。一つの作品を工夫しながら真剣につくりこむことを楽しむ子どもの姿や、みんなで音を重ねて楽し

◆ 代表 <sup>ほん</sup> <sup>だ</sup> <sup>あい</sup> <sup>し</sup> <sup>ま</sup> <sup>はるか</sup>  
本 田 愛, 志 摩 遙

い音楽が生まれる様子を見ることができ、とても素敵な活動になりました。

また、今年は初の試みとして、近代美術館との協働プロジェクトに挑戦しています。子どもたちが美術の魅力を発見し、美術に対するポジティブな気持ちが芽生えるような活動にしていきたいと考えています。

私たちは、これらの活動に向けて、毎週木曜日18時30分から会議も行っています。子どもたちに美術の楽しさを伝えることができる活動を一緒に考えてみませんか？気軽に地域連携センター2階教育メディア開発室に見学に来てください！

<学校教育学部 学校教育実践コース 3年>  
<学校教育学部 美術科教育コース 3年>



【平成27年10月1日設立】

## 男子バスケットボール部

私たち男子バスケットボール部は梅野先生ご指導の下、3年生4人、2年生2人、1年生6人の計12人のプレイヤー、そして3人のマネージャーとともに活動しています。人数が少ない部活ですが、そのぶん団結しており、また女子バスケットボール部と一緒に練習をしています。私たちは月曜、水曜、土曜の練習に加え、夏には強化練習、冬には30kmマラソン、春には合宿を行っており多くのイベントがあります。さらに3月には全教があり、全国の教育系大学と試合をすることができ、思い出に残る活動が出来るのが私たちの部活の特徴です。しかしインカレなどの公式戦で結果

◆ 主将 <sup>まち</sup> <sup>だ</sup> <sup>てつ</sup> <sup>ろう</sup>  
町 田 哲 郎

を残すことができていないので、結果を残せるよう練習に励んでいきます。

<学校教育学部 社会科教育コース 3年>



【平成6年5月17日設立】

## 小学校

### 主免教育実習

附属小学校は、本年12月で創立140周年を迎えます。運動場南東側に、総合遊具が設置される計画が進んでおり、記念ファイルも作成される予定です。

さて、9月1日（火）から、約一ヶ月間の主免教育実習が始まりました。子どもたちは、6月の観察実習で実習生と一度会っていたので、楽しみに待っていました。たくさんの実習生とともに過ごす中で、好奇心旺盛な子どもたちは、いろいろな新しい事を学んでいます。

体育大会の練習では、いっしょにダンスや競技などを練習しています。若くはつらつとした動きを見て、子どもたちも自然と意気が揚がり、高い目標をもってがんばっています。授業中は、実習生の一言一句に興味津々で、新鮮な気持ちで学習

◆ 附属小学校 教諭 <sup>おおにしあいこ</sup> 大西愛子

に取り組む姿が見られます。また、清掃時間には、隅々まで何往復でも楽しそうに拭き掃除を行うなど、いろいろな場面で活気あふれる学校生活となっています。

実習生は、実習中は学生ではなく「社会人」としての自覚に立ち、積極的に全力で子どもたちとふれ合おうとしています。子どもたちも、この出会いを通して学んだことをこれからの生活に活かすことができます。ともに汗を流しながら、互いの未来につながる豊かな交流が行われています。



## 中学校

### 吹いて奏でて楽しい部をめざして

本年度、本校の吹奏楽部は、3年生17名、2年生21名、1年生14名の計52名で活動しています。「吹いて奏でて楽しい」を部訓に、「吹奏楽を通じて、いい音楽・いい仲間づくりをする」を目的として、にぎやかに毎日練習に取り組んでいます。活動としては、学校行事での演奏やコンクールへの参加を行っており、年間を通じて多くの演奏ができる機会をいただいています。特に、7月から9月にかけては、全日本吹奏楽コンクール徳島県大会、徳島市・名東郡連合音楽会、そして文化祭と行事が目白押しです。大忙しながらも、演奏技術の向上がぐっと図られ、部員同士の絆も深まる充実した期間となります。

毎年9月の始めに行われる文化祭では、3年生は最後のステージ、そして1年生はステージデビューを飾り、最初で最後、1年生から3年生まで揃って

◆ 附属中学校 教諭 <sup>うえはらしょうこ</sup> 上原祥子

の舞台になります。今年も9月4日に文化祭が行われ、全5曲を演奏した他、3年生の学年合唱の「ハレルヤ」の伴奏を務めました。この本番に向けて、先輩が後輩に演奏技術やマナー等の指導をみっちり行い、それぞれの仕事を分担し、協力して行ってきました。本番が終わると、後輩から3年生へ感謝の気持ちが一杯詰まった心温まる寄せ書きを贈り、涙、涙の卒部式となりました。本年度も、部の目的である吹奏楽を通じての仲間づくりが実感できた文化祭となりました。



## 特別支援学校

## こんにちは附属です

暑い毎日が続いた夏休みも終わり、17名の生徒たち全員が元気に学校生活をスタートしました。

さかのぼること2カ月前の7月9日（木）～10日（金）に小雨が舞う中、徳島県立防災センターを舞台に「防災キャンプ」を実施しました。同センターの担当の方のご指導の下、災害体験、避難食の調理体験、避難所設営体験等をさせていただきました。

日ごろの家庭や学校生活と違う不便さを強く感じる環境下で生活することは、生徒に心身の不安定を生じさせてしまうのではないかという心配がありました。そうした教員の心配をよそに、生徒たちは不調に陥らず不満を表現することなく、炊き出しのカレーをおいしくいただき、夜は床にダンボールを敷き詰め、仕切りを立てて自分の寝

### ◆ 附属特別支援学校 教諭

いわ 岩 さき 崎 のぶ 伸 ひろ 浩

床をつくって一夜を過ごしました。

さすがに、2日目には全員、疲労の色が見受けられたものの、個人の役割、集団の中での協力・協働体験を積むことができました。学校で行っている避難訓練や安全教育の積み重ねがこうしたイベント行事で発揮できることに日ごろの学習の成果を感じることもできました。



## 幼稚園

## 夕べのつどい・宿泊保育を経験して

今年度も、夏休み前に「夕べのつどい」「宿泊保育」を行いました。年長児が「おばけやしき」「金魚すくい」などの夜店や夕食の献立の計画をし、意見を出し合ったり役割を分担したりしながら準備を進めていきます。お客さんとして来てくれる年少児や年中児のことを思いながら準備をしていく中で、徐々に幼稚園のリーダーとしての喜びや責任を感じているようでした。

当日には、幼稚園児だけでなく附属小学校の先生方もたくさんお客様としていらしていただき、どのお店も活気に満ちて、子どもたちの表情も輝いていました。夕食後には、有志の保護者の協力をいただき阿波踊りや花火をしました。年長児はその後、みんなで幼稚園に泊まる経験もしました。自分で考えて行動したり、友達と一緒に力を出し合っつつくり出す生活を、寝食を共にしながら体験したことは幼児たちにとって大きな自信となったようです。

### ◆ 附属幼稚園 教諭

ふじ 藤 かわ 川 かよこ 佳余子

幼児たちは、周りのいろいろな人から支えられたり、愛情を感じたりして、のびのびと自己を発揮しながら生活しています。私たちも感謝の気持ちを忘れず、幼児一人ひとりの思いに寄り添いながら、成長の喜びを共に感じていきたいと思っています。





## 日本の伝統料理体験 Experienced Japanese traditional food

◆ 教員研修留学生 マルフィ ハニ Malfi Hani (イエメン)

先日、留学生を対象とした料理教室に参加しました。日本の伝統料理を留学生が体験できることは、大変有意義なことだと思います。参加していた他の留学生やボランティアの皆さんと協力して料理を作ることができ、本当に楽しかったです。私たちは3つのグループに分かれて、それぞれのグループで同じ献立を作りました。最初に、レシピを見ながら「お好み焼き」という料理を作りました。実際に作ってみると、お好み焼きは小麦粉とキャベツ、水、油、卵を混ぜて作る、大変シンプルな料理であることが分かりました。特に作り方のコツがあるわけではありませんが、必要なことは順番にそれぞれの材料を混ぜていくことと、それらを上手にフライパンの上に垂らして、10分ほどしたら、目玉焼きをひっくり返すのと同じ要領でひっくり返すことです。お好み焼きが焼き上がったら、上にソースをかけて食べます。またお好み焼きの他にも、中に入れる具材を自分で決めることのできる、「手巻き寿司」という料理も体験することができました。

お好み焼きの作り方をしていると、私の国の伝統料理、「Mutabak」を思い出しました。作り方はお好み焼きとほぼ同じで、Mutabakは細かく切った野菜を二層のパン生地の中に詰め、それをホットプレートの上で焼きます。お好み焼きと唯一違うところは、材料と一緒にスパイスや唐辛子を入れて、風味を加えるところです。

作り終わった後は、料理を食べながら、各国の料理や文化について話をしました。みんな食べ過ぎてしまい、最後に記念写真を撮って終わりました。とても素晴らしくて美味しい経験ができました。

I joined a cooking class just the other day. The idea of having such cooking activities was a rewarding experience in which we could participate in cooking some Japanese dishes. We could enjoy the taste of a special dish we, other people from Naruto University of education, other students and me, made it ourselves

which was just fun.

We were three groups, each of us participated in cooking the same dish. We had a recipe as how to make Okonomiyaki, which is a famous Japanese dish. As a matter of fact, this dish is very simple to make which mainly consists of (flour, cabbages, water, oil and eggs). There is not a special way as how to make it, but all one needs to do is to follow the steps of adding and mixing them together and ,skilfully, pouring it in to a frying pan to be flip-fried for about 10 minutes; much the same you flip a fried egg. The moment it gets cooked it can be served with some sauce topped on it. There was another thing we could experience; how to make a seaweed-rolled sushi, the selection of the stuff was optional. The way Okonomiyaki was made reminded me with a dish we make in my country called Mutabak which is prepared the same way but we stuff chopped vegetables inside two thin layers of dough and then we fry it on a hot-plate. The only different is we add some spices and hot pepper which makes it more flavoured. On the table we enjoyed eating and talking about food and other cultural things. Every one of us ate too much and ended up with posing for photos. It was wonderful and YUMMY!





## 姫路への学外研修

### ◆ 特別聴講生 ティアンウォン ティチャー (タイ)

6月27日(土)に留学生、国際ボランティア、国際交流係のみなさんと一緒に、学外研修で「あずきミュージアム」と「姫路城」へ行きました。

朝8時半頃にバスで学生宿舎を出発しました。バスの中では、いろいろなゲームをしたり、クイズをしたりして楽しく過ごすことができました。

出発してしばらくバスに乗っていましたが、ようやく11時30分ぐらいに「あずきミュージアム」に到着しました。

実を言うと、研修に行くまでは「あずきミュージアム」に行くことがあまり楽しみではありませんでした。しかし、行ってみると本当に面白かったです。その日の見学を通して、本物の小豆の木がどんなものかを知ることができました。また、どんなふう成長するのかも初めて分かりました。ガイドの方にいろいろな情報を教えていただき、とても勉強になりました。

日本では縄文時代から小豆を食べ始めたそうです。小豆は日本の文化にこれまでずっと大きな影響を与えてきました。小豆からは様々な料理を作ることができ、お祭りや行事の時にも使われてきました。

実はタイにも小豆があります。小豆を利用して、日本のように様々な料理が作られています。タイとそっくりのメニューもあるので、びっくりしました。そのメニューは「竹筒飯」です。でも、味

は違うかもしれません。

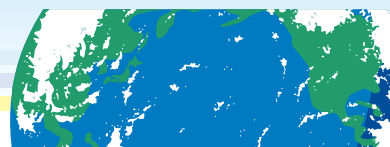
「あずきミュージアム」では10倍サイズの小豆の木が展示されていました。そこには1匹の隠れた小さな虫がいたのですが、みんなとそれを探すのがすごく楽しかったです。とても面白い研修になりました。

次に訪れた場所は「姫路城」です。そこに行くことを、前々からすごく楽しみにしていました。それは、日本の歴史を勉強したときに姫路城のことを学んだことがあったからです。「いつか実物を見ることができたらいいのになあ。」とずっと思っていました。なので、こんなよい機会があって、とてもうれしかったです。実物を見ると本当にきれいでした。「姫路城」は立派な建物だと思いました。600年以上建っているのに、そんなに長い時間を経ても、まだ立派な状態であることに驚きました。

姫路城の中を見学したとき、6階まで上りました。疲れましたが、とても楽しくて、良い勉強になりました。

留学生の皆さんは学外研修があれば、ぜひ参加してください。絶対楽しいですよ。今回の学外研修で、たくさんの良い思い出を作ることができてうれしかったです。





## 留学体験記

### —アメリカウェスタンカロライナ大学留学報告—

◆ 学校教育研究科 <sup>かわ</sup>河 <sup>むら</sup>村 <sup>ゆう</sup>優

私は2014年8月～2015年5月の9か月間、ノースカロライナ州にあるウェスタンカロライナ大学に留学しました。ウェスタンカロライナ大学は山に囲まれたのどかで治安のよい場所にあります。そんな環境に合うようにそこに住む人々もとても温かく、私が留学している間も生活面や勉強面など様々な面で親身になって助けてくれました。

授業は日本のように全ての授業を90分×週1回受けるのではなく、同じ学期に50分×週3回(月・水・金)、75分×週2回(火・木)、170分×週1回の授業がありました。私は週3回、週2回の授業を組み合わせ各学期に4つの授業を受けました。私は教育、英語、コミュニケーションの授業を受講して、特に異文化コミュニケーションの授業が面白く感じました。この授業では、グループになって日本文化とアメリカ文化について調べました。私はアメリカの個人主義と日本の集団主義について調べました。自分の文化を異なる文化と比較することで、普段から当たり前になっていることにも理由があることに気づくことができました。

普段の生活はアメリカ人の学生や他の留学生たちと一緒に大学寮に住んでいました。ウェスタンカロライナ大学にはいくつかの大学寮があって2人部屋と1人部屋があります。ほとんどの寮には学生が自由に使えるスタディールームやキッチンがあります。私は秋学期はアメリカ人の学生と一緒に2人部屋で、春学期は1人部屋で過ごしました。大学内には食堂があり、ミールカードを使ってバイキング形式で好きなものを食べることができます。その他にもコンビニやメキシコ料理、中華料

理などのお店も大学内に入っています。ジムも充実していて、学生は無料でランニングマシンや筋トレマシンを使うことができます。そして1学期に20ドルを支払うとZumbaやYogaなどのダンスやエクササイズのリッスンを受けることができます。私も何度か参加しました。

留学中は基本的に授業に出て課題をすることが多かったのですが、ちょっとした隙間時間に友人と一緒にご飯を食べたりジムに行ったり、週末に外に出かけたりしました。特にウェスタンカロライナ大学は自然に恵まれているので、大学内を歩いているときはもちろん、ハイキングやラフティングに出掛けると壮大で美しい景観を楽しむことができます。

また、ウェスタンカロライナ大学は2学期の間に休みが5回もあったので、休みの間にアメリカ人の友人の家に泊まらせてもらったり他の留学生と一緒に旅行に出かけたりすることができました。地域ごとに気候や雰囲気が違って興味深かったです。

この留学を通して、海外の友人が増えたり様々な国の文化に触れたり、日本ではなかなかできない経験をたくさんすることができました。楽しいことばかりではないかもしれませんが、向こうでした経験は自分にとってとても大切なものになると思います。もし興味を持っている方がいればぜひ留学してみてください。

(教科・領域教育専攻 言語系(英語)コース 2年)



## 韓国の光州教育大学との交流について

◆ 教員養成特別コース 教授 <sup>あ</sup>阿 <sup>がた</sup>形 <sup>つね</sup>恒 <sup>ひで</sup>秀

「グローバルな視点を持った教員を養成する海外研修プログラム策定のための調査研究」事業の一環として、平成27年1月に、山下一夫理事・副学長、生活健康系コース（家庭）金貞均教授、国際交流係中野英之事務員、阿形の4名で、韓国の光州教育大学を訪問し、平成7年に締結した国際学術交流協定、並びに平成8年に締結した学生交流実施細目（いずれも平成23年に再締結）の実質化に向けて意見交換を行いました。

光州教育大学校では、李廷先総長、高在天教務処長、社会教育科の李貞姫教授、国際交流担当のソジュンモ氏等の先生方との共同セミナーを行うとともに、今後の具体的な交流・研修の在り方について朱大昌企画処長と協議を行いました。その結果、両大学の交流は光州教育大学としても強く望むところであるということで、早速、光州教育大学校の学生の2月の訪日・本学訪問と学生交流会の実施が提案されました。さらに、光州教育大学において本学の大学院生（修士課程及び専門職学位課程）の短期海外研修を実施することについても可能であるとの回答をいただき、今後、実施時期・研修内容について協議を進めていくことで合意しました。

2月9日に朱大昌企画処長をはじめ4名の先生方と20名の学生さんが来日、翌10日の午前中に、本学学長表敬訪問、附属小学校見学を行い、午後には、本学の学生・院生25名との学生交流会を行いました。交流会では、日韓の学生・院生が4グループに分かれ、協力して日本語とハングルの併記の名札を作った後、光州教育大学の学生さんたちの問題意識を踏まえて

1. 日本の子どもに対する礼儀教育
2. 日本の子どもに対する安全教育
3. いじめ
4. 暴力的な漫画等の悪影響に対する生徒指導
5. 教師の権威維持のための方策（賞罰制度等）
6. 子どもの人権（行動）を制限する学級規則

のテーマでディスカッションを行いました。そして、交流会終了後は、会場を学生食堂に移して、懇親会を行いました。

9月後半には、本学の3名の教員と7名の院生が光州教育大学や光州教育庁（教育委員会）等を訪問し、いじめ問題などに関する韓国の状況について、研修を行う予定です。



光州教育大学の玄関で



キャンパスのモニュメント（子どもの心のように）

# 1日警察署長を体験してみても

◆ 学校教育学部 <sup>たけ</sup>竹 <sup>した</sup>下 <sup>さえこ</sup>早慧子

私は、一日警察署長として春の交通安全週間初日の交通安全週間パレードに参加させていただきました。私は参加させていただいた日、朝通勤する方々に交通安全を呼びかける活動をした。一日警察署長ということで、非常に身の引き締まる思いがした。私は一日警察署長を体験することで、自分の交通マナーを見直すきっかけを得ることができた。

私は、普段移動手段として自転車を使っている。特に何の意識もせずに乗っている。だから、車と事故を起こしそうになったり、歩行者にぶつかりそうになったり、自転車と衝突したりなど何度も危ない目にあってきた。このような体験をしてきたのにも関わらず、喉元過ぎれば熱さを忘れるというやつで、すぐに危険な運転に戻ってしまう。安全運転をしなければならないとは分かっているけど、つい面倒くさってしまう。だが、一日警察署長を務めさせていただくことが決まったことで、普段あまり気にかけてはいなかった自分の交通マナーについて見直した。なぜなら、たとえ一日であっても警察署長を務め、地域の方々に交通安全を呼びかけるのであれば、自分自身が模範となるべく努力した方が良く考えたからだ。一日警察署長を務めることが決まってから、私はまず自転車に乗る際に周りをよく見る、スピードを出しすぎないなどを心がけるようにした。これらのことは当たり前前のことではあるが、普段は気を抜いて怠ってしまうことが多い。だからこそ、自分は

基礎的なところから見直すことにした。また、車の後部座席に乗る際に怠りがちであったシートベルトを締めるようになった。これらをすることで今までのように危ない目にあうことはほとんどなくなった。それだけではなく、普段はあまり考えなかった交通マナーについて積極的に考えるようになった。

一日警察署長の体験は活動そのものもそうだが、それまでの過程も含め、非常に有意義なものとなった。自分自身を見直し、改善しようと努力をしたので、自信をもって一日警察署長をすることができたのだと思う。だが、一日警察署長をさせていただく機会が得られなければ、自分自身の見直しもできなかつたろうし、自分に自信を持つこともできなかつたろう。だから、一日警察署長を体験させていただいたことに非常に感謝している。これからも、一日警察署長の名に恥じないような行動を心がけたい。

〈小学校教育専修 学校教育実践コース 2年〉





# 学生会・院生会だより

## みなさんのより良い学生生活をめざして

◆ 学生会長 知花泰斗

みなさん、こんにちは。学生会会長の知花泰斗です。今年度も学生会執行部一同は皆さんのより良い学生生活をめざして、楽しく活動しています。

先日のかき氷大会は小雨の降るなか、多くの方々に参加していただき、とてもうれしく思っています。ただ、毎年2回開催しているのですが、残念なことに今年は天気の関係で開催することができなかったことを、この場を借りてお詫びしたいと思います。

今年度から始めて開催した学生会の行事としてうずフェスがあります。これは新入生に鳴教の部活・サークルを知ってもらうための企画で、構内を使って大規模に行いました。また、うずフェスは多くの部活・サークルの方々の協力を得ることで開催することができました。本当にありがとうございました。

学生会執行部の新入生も6人が加入し、学生会の活動も活発になっております。今後の学生会の活動としては、10月に徳島ヴォルティスとの連携企画のスタジアム学園祭があります。こちらは昨年と同様にボランティアスタッフを募る予定ですので、皆さんにも積極的に参加し、交流の場としてもらえたらと思っています。今後も学生会執行部はみなさんの学生生活をよくするために頑張っていきたいと思っています。



## 受け継がれていく院生会

◆ 院生会長 阪下健太

秋らしく過ごしやすくなってきた、今日のこのころ、みなさんはどのようにお過ごしでしょうか。平成27年度、前期院生会の仕事を終え、私はホッとしています。

今年度の春、院生会会長になりたい、そう思いから自ら立候補し、この役職に就任しました。何もわからず、ただ、前院生会の代表の方々の話を聞いて、楽しそう、そう思ったからです。

そして最初のイベントのソフトボール大会、その後の、国際交流パーティー、院生会のメンバーや、院生の方々のおかげで、無事終えることができました。しかし、その行事の中では、もっとこうしておけばよかった、など思うこともありました。しかし、「これだけは」という思いを持って、これらの行事に取り組んできました。それは「大学院生を盛り上げること」です。これは院生会の、代々受け継がれてきた気持ちです。

これを実現していくために、院生会代表を主としてたくさん考えてきました。その甲斐あってか、

「楽しかった」といった声を多く聞きました。運営で大変な事もたくさんありましたが、これが院生会のやりがいだと感じました。

これから、平成27年度、後期を、院生の方々と共に、盛り上げられたらなと思います。残り半年ですが、私たち院生会をよろしくお願いします。



# 健康手帳

## 原爆被害と白血病

◆ 心身健康センター所長 ひろ 廣 せ 瀬 まさ 政 お 雄



今年太平洋戦争が終わって70年になります。戦後、1960年頃まで恐らく全国的に門前市（もんぜんいち）が立っていたものと思われませんが、私が生まれた町でもお寺で市（いち）が催されて、お不動さんと呼ばれていました。田舎の子どもの楽しみのひとつでした。セピア色の記憶のなかで、特に強く印象付けられているのは、最寄りの駅からお寺までの道沿いの傷痍軍人（戦争で傷を負った軍人のこと）の姿で、一様に「ここはお国を何百里 離れて遠き満州の 赤い夕日に照らされて 友は野末の石の下・・・」と、「戦友」という歌を何とも物悲しくアコードオンを弾きながら歌っていました。彼らは腕や足がなかったり、あるいは体の方々を包帯で巻いていたのです。

終戦の年の8月6日と8月9日には広島と長崎に原子爆弾が落とされ、多くの方が犠牲になりました。私は、子どもの頃に被爆者と思われる人に会い、医師になった後、被爆者の子孫の兄弟に現れた白血病を診る機会がありました。今回は、原子爆弾の被害について医学的な観点から考えてみたいと思います。

私は徳島県の出身で、家の前にはバス整備場と職員の宿泊施設それと付属の停留所がありました。また、その隣には小学校がありましたから、バス整備場や停留所は子どもの遊び場も兼ねていました。初夏の雨の後、整備場の水たまりに“アオスジアゲハ”が乱舞していたのが鮮やかに思い出されます。その年（1955年頃か）の夏が終わって、何の気なく切符売り場に行くと一人の男性が切符を買っていました。そして、その人がこちらを向いたとき、ちょうど体の右半分がケロイドになっているのを見て大変驚かされました。

医師になって、1992年頃、兄弟の白血病症例を経験しました。白血病の兄弟例は珍しいので家族に話を伺ったところ、患者の母方の祖父母が被爆直後に広島を通過したという陳述があり、被爆3世の白血病との診断に至りました。彼らの白血病細胞には被爆に特徴的な染色体異常（monosomy7（7番染色体が1本しか見られない

異常）など）が複数認められました。祖父母の被爆線量が多かったため、とくに感受性が高かったため、あるいはそれら両方が関係したためと考えられました。

体の右半分の皮膚がケロイドになる原因は瞬時に高温に曝されたために起きたもので、被爆によるものと考えられました。また、兄弟症例については、白血病細胞の染色体所見が被爆によってもたらされたことを示唆していました。当時、被爆の影響は遺伝しないと考えられていましたが、この症例報告がイギリスの医学雑誌に掲載されてから、広島大学などから被爆者の子孫に起きた遺伝に関する研究成果が続々と発表されました。

血液は、骨髄の未熟な細胞が徐々に成熟と増殖を繰り返しながら末梢血に出てきます。この過程の内、どの成熟段階（骨髄や末梢血のこと）で癌化しても血液の癌すなわち白血病となります。一般的な白血病においては、発生率は人口10万人当たり数人と多くなく、原因は通常明らかではありません。子どもの白血病はほとんどが骨髄中の未熟白血球が癌化したもので、1970年代になって研究が急速に進展したことにより、治療成果もまず小児白血病に現れました。また、難治性の場合、骨髄移植などが適応となります。現在、小児白血病の治療率は75%ほどに改善しています。しかし、抗癌剤による定期的な治療が欠かせないので、これの2次的な影響も無視できません。一方、成人の白血病は多様な骨髄増殖性疾患の1病型と分類されており、予後や治療方法も病型ごとに大いに異なります。

白血病などの癌の原因は、通常、たばこなどに含まれる化学物質、ウイルス感染、放射線や紫外線などであり、放射線は重要なもののひとつです。広島と長崎では種類の違う原子爆弾による放射線を浴びて白血病をはじめとして癌が多発しました。自然界には微量の放射能が存在しますが、通常健康への影響はないと考えられています。しかし、原子爆弾などによる過剰な放射線被曝は健康に重大な影響を及ぼすことが明らかになっています。

# 学生相談室だより



## 『話すこと』は『放すこと』

◆ 心身健康センター学生相談室 カウンセラー **三輪幸子**

学生相談室は、本部棟1F心身健康センター内にあります。自分には、そんなところ関係ないと思っているかもしれませんが、そう思っている人生いろんなことが起こってくるもので悩むこともでてくることでしょう。そんな時にどうか思い出してください。

「ちょっと、敷居が高くて相談しにくい。」「自分はそこまで悩んでないので相談する必要がないと思っていた。」と、相談に来られた学生さんからよく聞く言葉です。

自分一人で問題解決しようとしていたが、いよいよどうしようもなくなり、体調を崩し、精神的に疲弊してしまってから相談にくるケースも少なくありません。もっと早くに話をしにきてくれれば、そこまで苦しまなくてもよかったのと思います。

また、相談に来る前に事前に話す内容を整理してから相談に来られる方もいます。ありがたいのですが、来て思いついたまま話をしてくれて大丈夫です。「何が何だかわからない。」「頭の中がグチャグチャで気持ちの整理ができない。」のままでいいのです。支離滅裂に喋ってくれていいんです。一緒に整理していきましょう。

とりあえず、「話を聞いてもらったら今より楽になれるかも。」と思って来てみてください。

「話すこと」は「放すこと」と、誰かが言っていました。

「話すだけ」で、心を軽くしていける。『カタルシス効果』があるんですね。

相談室に入ってきた時と出て行く時とでは、明らかに表情がかわっています。話すことで自分の内にあったものを外へ出す。こわばっていた気持ちがどこか解きほぐれる。解決できることばかりでないとしても、例え、それが何なのかははっきりと説明できなくても、間違いなく変化があり、それは“すっきり”とか“軽く”というような感覚として感じられるものなのだと思います。だから「ただ話すだけ」でも意味がきちんとあるわけです。

そこで、誰に話しますか？ 誰に聞いてもらいたいですか？

人に助けを求めるといのは、慣れていないと勇気のいることです。それがみじめなことほど言いにくいものです。話してみて拒絶されたら、余計にみじめになってしまうのではないかと知らない心配をしてみたり…。それなら、学生相談室へ来てみませんか？

カウンセリングは秘密厳守です。カウンセラーを信頼して話してみてください。

その勇気からきっと何かが変わり始めます。

**要予約**：心身健康センター 088-687-6631（二宮看護師）

**日時**：本学担当教員への相談：随時

カウンセラーへの相談：水・木 12:00～17:00



## 平成27年度学生生活実態調査へのご協力をお願いします！

「学生生活実態調査」とは、学生の生活実態を把握し、学生支援の基礎資料を得ることを目的に、隔年で実施しているものです。【前回：平成25年度】  
学部・大学院生全員が対象となりますので、ご協力をお願いします。



### 調査票提出締切日：平成27年11月20日（金）

※調査票は、10月末に配付予定です。  
※調査票から個人が特定されることはありません。  
※調査票に記入後、封筒に入れて提出してください。

#### <調査の流れ>



## 道路交通法（自転車ルール）の改正について

2015年6月の道路交通法改正で自転車運転に関して厳格化されました。

危険項目に指定されたのは、14項目です。

明らかな危険行為もありますが、ついしてしまいがちなミスも危険項目に指定されています。

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| ① 信号の指示を無視すること              | ② 道路標識などで通行禁止されている場所を通ること   |
| ③ 歩道を徐行せずに通ること              | ④ 自転車専用レーンの枠外を通ること          |
| ⑤ 歩道がない道で歩行者の通行を妨げること       | ⑥ 閉じようとしている又は閉じている踏切内への立ち入り |
| ⑦ 交差点で優先されている車両の通行を妨げることなど  | ⑧ 交差点で車両の通行を妨げるように右折することなど  |
| ⑨ 右回り通行が指定されている交差点で流れに逆らうなど | ⑩ 一時停止の指定がある場所で止まらないことなど    |
| ⑪ 歩道上で歩行者の通行を妨げること          | ⑫ ブレーキが利かない又は壊れた自転車の運転      |
| ⑬ お酒を飲んでの自転車運転              | ⑭ 前方不注意などのさまざまな行為           |

### そもそもこの行為は禁止行為です！ ー日常生活に密着した行為も当てはまりますー

これらは、もともと自転車規則で禁止されています。今までは、警察官に注意されるだけで済んだ場合もありましたが、取り締まりの対象となり罰則があります。

通勤・通学や買い物に行く時など、こんな交通違反をしていないでしょうか？

#### 原則、車道を左側通行

道路標識で指定された場合や、「13歳未満」・「70歳以上」・「一定の身体障害を有する人」などは例外です。

#### 傘を差しての自転車運転

傘を自転車に固定して使用も「×」、雨の日に乗る場合はレインコートの着用が必須です。

#### 携帯電話を使用しながらの自転車運転

運転中の携帯電話の操作だけでなく、チラッと見るだけでも違反になるので要注意です。

#### イヤホンやヘッドフォンで音楽を聴きながらの自転車運転

通勤・通学時にしていた人も多いかもかもしれませんが、安全運転義務違反にあたる行為です。

#### ブレーキを備えていない又は不備のある自転車の使用

ノーブレーキピスト自転車は違反車両。指定された場所以外での使用は絶対禁止です。

#### 2台以上での並列走行

並列走行OKの道路標識がある場所以外、おしゃべりしながら横並びになり自転車運転する行為は違反です。

#### 2人乗りでの一般自転車運転

自転車の場合16歳以上の運転者が、6歳未満の幼児1人に限り専用椅子に乗車させるのはOKです。道交法上、幼児2人を同乗させることができる特別構造の自転車は、6歳未満の幼児2人の乗車までが許可されています。

# 行事予定

平成27年度後期

行 事 等			
共 通	10月1日(木) 創立記念日(34周年) 10月2日(金) 授業開始 10月12日(月) 「後期履修登録」締切 10月13日(火)～10月19日(月) 後期履修登録変更期間 11月13日(金)～11月15日(日) 大学祭・学生表彰表彰状授与式 12月18日(金)～12月25日(金) 冬期集中講義 12月26日(土)～1月3日(日) 冬期休業 1月下旬 サークル・リーダーシップ・セミナー 3月1日(火)～3月31日(木) 学年末休業 3月18日(金) 学位授与式, 各賞授与式, 学生表彰表彰状授与式		
	学 部	10月14日(水)～10月27日(火) 施設実習(2年)【鳴門こども学園等】 期間中10日間 10月19日(月)～10月23日(金) 特別支援教育観察実習(4年)【附属特別支援学校】 10月19日(月)～11月13日(金) 特別支援教育実習(4年) 【附属特別支援学校, 県立特別支援学校】 期間中2週間 10月20日(火)～10月21日(水) 3年次生合宿研修 10月26日(月)～11月6日(金) 副実習(4年)【附属中学校】, 【附属小学校27日(火)～】 2月1日(月) 「卒業研究」提出締切 2月15日(月)～2月22日(月) 後期試験期間	
		大 学 院	11月30日(月) 1年次生(修士)(長期履修2年次)「学位論文計画書」提出締切 2年次生(修士)(長期履修3年次) 「学位論文計画書(変更届)」提出締切 1月20日(水) 2年次生(修士)(長期履修3年次)「学位論文」提出締切 2年次生(専門職学位課程)「最終成果報告書」提出締切
			※11月4日(水)は、火曜日の授業, 11月26日(木)は、月曜日の授業を実施する。

## 入試関係行事

- 学部推薦 (I型)  
11月22日(日)
- 大学院 (中期選抜)  
11月28日(土)
- 大学入試センター試験  
1月16日(土)・17日(日)
- 学部推薦 (II型)  
1月26日(火)
- 学部 (前期日程)  
2月25日(木)・26日(金)
- 大学院 (後期選抜)  
3月5日(土)
- 学部 (後期日程)  
3月12日(土)

## 学生会主催行事

- クリスマス・イルミネーション  
11月下旬～12月 図書館前
- 卒業記念パーティー  
3月18日(金) 体育館

## 院学生会主催行事

- ソフトバレーボール大会  
12月12日(土) 体育館
- 修了記念パーティー  
3月18日(金) 体育館

## 就職支援行事予定

- ※詳細は、就職支援室で確認すること!! (平成27年10月～平成28年3月)
- 3年次合宿研修……………10月20日(火)～21日(水)
- 大学院生就職研修会……………10月31日(土)
- 企業ガイダンス……………11月4日(水), 11月18日(水)
- 教採対策ガイダンス(基礎編)……………11月11日(水)・18日(水), 12月2日(水)・9日(水)・16日(水)  
1月6日(水)・20日(水)・27日(水), 2月3日(水)・10日(水)
- 公務員等ガイダンス I・II……………11月11日(水), 2月17日(水)
- 教採対策ガイダンス(論文文編)……………11月25日(水), 1月13日(水)
- 就職ガイダンス I・II・III・IV……………11月25日(水), 12月9日(水), 1月20日(水), 2月10日(水)
- 身だしなみ講座……………12月2日(水)【男子学生編】, 12月16日(水)【女子学生編】
- 教採実技ガイダンス(集団)……………12月5日(土)
- 本学出身教職関係者との情報交換会……………1月30日(土)
- 教採実技ガイダンス(個人)……………2月13日(土)
- 教員採用模擬試験……………2月27日(土)
- 教採対策特別ガイダンス……………1月～7月上旬

## 編集後記

大学祭が近づいています。実行委員のみなさんは今忙しく準備活動をしているのではないのでしょうか。私も大学祭でコンサートの企画を担当しました。30年近く前のことですがあの時の経験は自分自身を大きく成長させてくれたと思っています。準備の段階で意見が合わずに悩むことがあるかもしれませんが、そんなときには原点である大学祭の目的を思い出してください。頑張れ実行委員。

さて、『学園だより』72号をお届けいたします。本学園関係者の様々な分野での活動の一端ではありますが、紹介させていただくことで本学への理解と共感がより深まることを願います。

最後になりましたが、ご投稿いただきましたすべての方々に感謝申し上げます。(K)

